

# 入所オリエンテーション

～ 食事のバランスの指導～

食育協働委員会

## 食事について



「バランスのよい盛り付け方はどれでしょうか？」

平成24年5月

## つどい食育講話内容一覧

食育協働委員会

以下の食育の話題をつどいで毎日話します。この内容で終わらず、食堂での朝食、夕食にどのようにつなげるかは担当職員の裁量です。

曜日	夕べのつどい		朝のつどい	
	項目	内容	項目	内容
月	礼儀	あいさつの意味 ----- 作った人・食べられる命への感謝。	健康	よく噛むことは大切 ----- 衰弱した老口バに入歯を付けたら元気になって長生きした。
火	栄養	成長期の偏食は脳に悪影響 ----- 偏った成長をした脳は、人間関係や学習、性格にも影響。	姿勢	楽しく食べよう ----- テレビ見ながらや1人でとかが多い。話をしながら楽しく。
水	安全	着色料、添加物、農薬の怖さ ----- ガンや皮膚病などの原因に。品質表示を確認する癖を	礼儀	国による食マナーの違い ----- インド右手で食べる。韓国片膝立で食べる。日本のマナーは？
木	健康	骨粗鬆症と食べ物 ----- カルシウムの多いものを。それだけでなく野外で運動を。	地産	農家がなくなれば日本は滅びる ----- 輸入品に押されて農家は厳しい。地産地消で農家を守ろう。
金	姿勢	日本人特有の優雅な姿勢を ----- 箸の持ち方。左手の使い方。姿勢を正しく。健康にもOK	環境	旬の食べ物は体にも良く... ----- 本来その季節にないものは燃料費がかさむ。旬の食べ物はエコ
土	文化	和食はヘルシー ----- 和食はカロリーが低く、下手なダイエットよりも健康的。	衛生	手をしっかり洗おう ----- 会話だけではうつらなかったのにトランプしたとたん感染。
日	環境	食べ残しが環境破壊に ----- 日本は6千万 t 輸入して2千万 t が残飯。処理が環境汚染に	健康	健康食品では健康にならない ----- 出されたものを良く噛んで残さず食べるのが健康の近道。

## 食育に関わるプログラム

食育協働委員会

平成 24 年 5 月

## ピザづくり (+ ポトフ)



「バランスよくトッピングしよう」

平成 24 年 10 月

## じり焼きづくり (+ 豚汁)

ねらい：群馬の食文化である粉物の中でも、伝統的郷土料理であるじり焼き（やきもち・おやき）を作って味わうことにより、地元の郷土料理や食文化について考えるきっかけとする。

材料：じり焼き ベースの小麦粉に好きな具材を選んで入れ、焼き上げる

- ・小麦粉 ・水 ・みそ ・黒砂糖 ・人参 ・えのき ・ほうれん草
- ・ねぎ ・ごま ・くるみ など

例 1 みそ+人参+えのき+ねぎ 例 2 黒砂糖+くるみ

作り方

1. 入れたい具を細かく切る（みじん切り）。人参などは摺り下ろしても OK
2. 小麦粉を水で溶く 水の量は適当・・・少しずつ混ぜ、適当なかたさになるまで
3. 生地に具材を混ぜ込む 混ぜたい具毎に生地を分けておくとよい
4. 鉄板に油を薄くしいて、弱火で焼く
5. 余った材料は豚汁に入れてもよい

重曹を入れるとふっくら仕上がる（やきもち）



## バイキングレーンへの料理名プレート設置

食育協働委員会



全料理に設置されたプレート

バランスのよい盛りつけのための情報として、料理名と原材料名が表示されています。

# 試行実施（学校受入）事業報告

報告書：坂 田 昇 （平成24年11月12日）

学校名：群馬県立尾瀬高等学校

実施日：平成24年4月11日(水)～12日(木)

ねらい：尾瀬高校に入学したての1年生に集団宿泊訓練やA A P (あかぎアドベンチャープログラム)・ツリーイングを通して、望ましい人間関係作りをする。

プログラム：ツリーイング、A A P、レクリエーション

担当者：坂田・内田

## 指導・支援の内容

### 実施前

#### 支援してもらいたいことの洗い出し(ニーズ調査)

- ・平成23年度中(24年3月)に尾瀬高校を訪問し、昨年度まで実施していた新入生オリエンテーション合宿の中身を変えて実施するのはどうか。費用的にも安くなるという案を提示した。具体的な改善として、ツリーイングを導入  
A A Pの後のふり返りの時間をしっかり取る。また、ふり返りのときにも担当のファシリテーターに参加してもらい、内容の濃いものにしてほしい。

#### 事前学習

入学式の次の日から赤城にやってくるので実施できない。

#### プログラム内容のアドバイス

- ・A A Pとツリーイングの抱き合わせで実施する。
- ・夜の体育館での活動時に赤城の職員によるレク指導を入れる。

#### 生活時間の調整

- ・特に調整はしなかった

### 当日

#### 行程への随行

- ・入所から退所まで、随行はしなかった。

#### 活動プログラムにかかるマネジメント

- ・夜の体育館での仲間づくりレクリエーションは職員がかかわった。

- ・ 2日目の昼食に野外炊事を計画していたが、朝から天候が悪かったので本館食にしてもらった。

#### 生活面での支援

- ・ スケジュール調整以外特別な支援はしなかった。

#### スタッフミーティングへの参加

- ・ 初日の22時にスタッフミーティングに参加。1日目の成果と課題について話し合った。また、翌日のスケジュールについても周知を図った。

#### 実施後

実施後（約1週間後）学年スタッフの打合せに同席させてもらった。

#### 学校側の感想，反省点，改善事項等

学年スタッフのミーティングで出た内容

- ・ 事前の話し合いからスタッフの方が学校に来ていただいて細かい話し合いができて良かった。
- ・ 実施時には、スタッフが張り付いていただけたので使える研修室や施設、お風呂の時間などの調整がスムーズにできた。
- ・ 天候の関係で野外炊事を中止して本館食にしてもらった。急な対応も可能になったのは試行実施の対応だったためからと感謝している。
- ・ A A P が講師によってレベルの違いが見られた。特にふり返りのところでは、生徒が自主的に行っていたのに、ある講師はそれを最初からやらせてしまった。
- ・ 今後もこのような対応（試行実施）をお願いしたい。また、A A P の指導についてはある程度均一になる指導をお願いしたい。

## 試行実施（学校受入）事業報告

報告者：柴崎 薫（平成24年11月15日）

学校名：渋川市立古巻小学校（児童数：111名、引率者：7名）

実施日：平成24年6月14日（木）～15日（金）1泊2日

ねらい：みんなと仲良く協力し合い、自然の中で絆を深める

プログラム：アドベンチャーポイントラリー、野外炊事、キャンプファイアー

担当者：柴崎・星野

### 指導・支援の内容

#### 実施前

##### 支援してもらいたいことの洗い出し(ニーズ調査)

古巻小にて、担当者2名と学年担当の先生4名とで、実施にあたり懸念していること、昨年度の改善課題の洗い出しを行った。

スケジュールぐみが困難であること（入浴時間、食事時間が定まらない等）

楽しみながら課題解決をしていくようなグループ活動を取り入れたい。

子どもたちが前に出る機会をたくさん作りたい

の3点が大きなポイントであることがわかった。

##### 事前学習の実施(45分)

内容は、

- ・赤城山の紹介
- ・宿泊棟・風呂など生活で使用する施設の紹介 重点おく（先生の希望）
- ・児童からの質問

##### プログラム内容のアドバイス

- ・アドベンチャーポイントラリーのデータ、基本マニュアルの作成
- ・ファイヤーにおけるレクリエーションの紹介

##### 生活時間の調整

・食事・入浴時間について、行動計画のアドバイスと決定  
（具体的には、入浴を先に済まし、食事を後でとってもらうようにした。その際、全体指導者の方に食堂での子どもの対応を担当してもらった。朝も、清掃を先にし、食事時間を遅らせた）

これらの調整で、計4回古巻小で打ち合わせをおこなった。

当日

#### 行程への随行

交流の家で合流し、自由時間以外は本隊についていた。

#### 活動プログラムに係るマネジメント

キャンプファイヤーの準備・片付け、ファイヤーマスターを全体指導者の方に担当してもらった。

#### 生活面での支援(トイレ、荷物置き場、食堂内の誘導、シーツの受け渡し)

先生は子どもたちについているので、場所の案内や整理を行った。この役割は、主に全体指導者の方に担っていただいた。

#### 活動写真の記録

先生も写真をとっていたが、活動で手一杯になることがあったので、こちらでも撮影した。そうすることで、先生を撮影することができた。それらの写真は、最終日の「思いでスライドショー」で活用した。

#### スタッフミーティングへの参加

事後

#### 改善点の聞きとり

書面で改善点をいただいた。(次項参照)

### **学校側の感想、反省点、改善事項等**

【古巻小5年生の先生方より】(事後にFAXでいただいた)

・ 入浴、食事などの時間について

同日に施設利用する学校ごとの入浴、食事、キャンプファイヤー(他校とかぶる場合)の時間設定については、今回のように事前に決めておきたい。3校ないし4校が利用する場合、入浴や食事の時間設定のパターンを作って、事前に希望を聞いて調整したらどうか。

(今回は、試行実施校だったため、事前に数回打ち合わせができて、入浴と食事の時間が決まったのでとても実施しやすかった。ぜひ、来年度も試行実施校を希望したい)

・ スライドショーについて

退所式の中で「スライドショー」を作成して見せてもらったのは、児童のふりかえり活動にとってもよかった。

・ 寝具について

敷き布団と掛け布団の違いがわかりづらいので、色などではっきり区別できるようにならないか。寝具の取り扱い(特に片付け)が小学生には難しい感じがする。部屋は洋室が一番利用しやすいと感じた。布団の上げ下げをしていない小学生も多いのではないか。

・ 貸出し機材について

キャンプファイヤー等の外のプログラムで使用する音響機材(アンプなど)は、も



う少し感度が良いものがほしい。

- ・ 児童への連絡について

館内の放送（あるいはインターホンなど）で、本校の児童や職員に連絡ができるようになるとうれしい。

- ・ 代表者打ち合わせ～つどいの時間について

同日に施設利用をする学校の合同打ち合わせから「夕べのつどい」までの時間が短すぎる。引率者への連絡もできないくらいだ。

- ・ 外部指導者（施設、ボランティア）の関わりについて

施設の職員、ボランティアの方に児童の面倒を見てもらい、本校の引率者が少ない部分を手伝ってもらってとても助かった。ありがとうございました。（職員、ボランティアの関わり方によっては、ある程度の費用を請求されても納得できる）

- ・ アドベンチャーラリーについて

アドベンチャーポイントラリーは、1 学期の集団づくりには適したプログラムだったと思う。

今回実施して、改善するところがあると感じた。

#### コース設定

範囲が広すぎたので、狭めたほうがいい。

#### ポイント設定

スタート/ゴールからの近い、遠いでポイント差をつけてもいいのではないかな。

#### ポイント

事前に詳しい説明が必要。解答用紙に写真やイラストなどを入れておくと分かりやすいのでは。

#### スタート/ゴール

屋根付広場などがいいのではないかな。

- ・ 入浴に必要な時間について

入浴時間が 10 分程度で忙しかったが、事前に入浴の指導ができたので、何とか時間内で入れた。できれば、1 回転 15 分ずつくらいは必要である。

- ・ 食事の際の手洗いについて

食事へ行く前に、洗面所で手洗い・消毒を済ませたので、混雑緩和になった。

### 【全体指導者より】

（よかった点）

- ・ 事前説明（学校での）が子供たちに十分届いていた
- ・ 日程に無理がなく、学校の積極的な姿勢が、計画した時間を有効なものにした
- ・ 振り返りの「スライドショー」子供たちがすごく喜んでくれたこと（大変だったと思いますが、すばらしかった）
- ・ スタッフの積極的な行動が、子供たちの笑顔でしっかり報われた

（改善点）

- ・ 現地でも述べましたが「アドベンチャーポイントラリー」ポストの意味合いが初めての子供たちには判らず、ポストの写真や図化を資料に入れたほうが良いと思

った。

先生との役割で、確認が落ちてしまった。地図や解答用紙に入っていればミスが防げる。

- ・ キャンプファイヤーで使用したケーブルドラムが、安全を考慮すると、E L B(漏電遮断器)付きのケーブルドラムに次回購入時変更したほうが良いと思う(漏電や雨水侵入時自動的に電気を遮断します)。またパイロットランプがついていることからコンセントから電気が来ていることも確認できる。
- ・ アドベンチャーラリーで、子供たちがごみを集めてくること(得点に加算される)は、事務局側にも教えてほしかった
- ・ 一部の子どもたちから集合時間に遅刻したのに一位とは?と不満が出ていた。今後子供とゲームをする場合ルールをより明確化することが必要なのかと考えさせられた。
- ・ 閉会式での挨拶では、代表スタッフのみ挨拶したが、全員から一言あってもよかったのではないかと。

## 【職員より】

(改善点)

- ・ アドベンチャーポイントラリーについて

どうしたら子どもが整地しながら歩けるか。

地図にもう少し子どもが位置を把握できる情報・絵などを落とすことはできないか?

エリアコントロールの再調整(ポストと連動)

- ・ 押し引き

すべてにおいて、先生との押し引きが重要。それは、対象によって異なる。

- ・ 今後の方向、可能性について

1泊2日で、回数を増やすことを学校に提案してみる。(長期より現実的)

縦割りでの宿泊学習なども実施できる学校があるのではないかと。

- ・ スライドショーについて

まとめの時間として、とてもいい雰囲気になった。先生も撮ることができてよかった。昼食時間で編集し間に合わせた。簡便に作る方法、要研究。

## 指導・支援の内容

ねらいの達成度

- ・ 事前に先生との打ち合わせを重ねることで、お互いの不明点を明らかにして当日望むことができた。それにより、先生方との連絡・連携(役割分担)がうまくいき、子どもたちへのスムーズな指導(適時連絡、適時アドバイス)ができた。それが結果的に、子どもたちの高い満足度、達成感、「楽しかった」という思い出につながったと思う。先生方と施設スタッフが一体感を感じて、宿泊学習を終えることができた。

## コストパフォーマンス

- ・今回は、特別なプログラムを指導したわけではなく、研修支援の対応としては、そんなに労力はかかっていない。
- ・学校側のニーズにあわせ、新しく作ったものはあった。その意味では労力がかかったが、今後にかせるものである。

施設案内のプレゼンテーション（事前学習用。活動場所の紹介、生活面のきまり事等）

アドベンチャーポイントラリーの資料一式

学校がどのくらいまでなら費用をだすことができるか

- ・講師 3 人分（8,000 円×3）程度ならぎりぎり出せる、との解答であった（実際は使わなかったが）。
- ・先生方の事後アンケート（「職員、ボランティアの関わり方によっては、ある程度の費用を請求されても納得できる」）にあるように、納得できる対価が提供できるのであれば、費用を負担してもらうこともできそうだと感じた。またそれが、保護者にとってわかりやすい名目であることも。

例：登山・野外炊事の指導

先生がいるのになぜ必要か？と思われる。（本当は必要だと思うが）

事前事後の授業、生活面での補助スタッフがつく

先生方だけで行うよりも、より充実した活動になるように見える。

その他

- ・学校が近かったため、頻繁に学校へ足を運んで打ち合わせることができた（アクティビティの詳細など）。ただ、遠方の団体の場合はそうもいかないため、お互いやりとりする回数が減ってしまったり、詳細までつっこんだ打ち合わせができなかったりする。下見時や、電話、FAX などのやりとりで、しっかりカバーしていくことが必要だ。
- ・現行のプログラム相談の方法では、なかなか団体のニーズと向き合うことができない。担当をもっと細分化し、頻繁に、細かなプログラム相談ができるような仕組みがいいのではないかと思う。

## 試行実施（学校受入）事業報告

報告者：高瀬 宏樹（平成24年11月15日）

- 受け入れ団体：前橋市総社小学校（児童数：36名、引率者：6名）
- 実施日：平成24年7月20日（金）～22日（日）
- プログラム：AAP、レクリエーション、野外炊事（カレーコンテスト）  
※雨天のため、当初の予定を変更した
- 担当者：高瀬・小川

### 試行実施にあたり行ったこと

《実施前》

#### ●支援してもらいたいことの聞き取り(ニーズ調査) 4/27実施

→総社小にて、担当と担任とで、実施にあたり懸念していること、林間学校で実施したいことの聞き取りを行った。

- ① 一クラスであるので、クラス運営を大切にしたい林間学校にしたい
  - ② 潜在的な力はあるのに自分たちでは行動を起こせない
  - ③ 全員で取り組める何かをしたい
- というニーズがあることがわかった。

#### ●事前学習に向けた資料提供

聞き取り調査をふまえ、6月29日に行われる事前説明会にむけて、プログラム提案と資料提供を行うため、メールでのやりとりを行った

<提案プログラム> 別紙参照

《当日》

#### ●行程への随行

交流の家で合流し、自由時間以外は本隊についていた。

#### ●トイレ、荷物置き場、食堂内の誘導、シーツの受け渡し

この役割は、主に先生に担っていただき、職員はプログラム指導に関わるようにした。

生活部分については、ふだんの生活でかかわらない先生方との関わりを強くするために、意図的にサポートしないようにした。

#### ●プログラム指導

担当職員が行い、全体指導者も一つのアクティビティを担当してもらった。全体指導者の立ち位置としてはプログラム補助という役割を担ってもらった。

#### ●先生との打ち合わせ

《実施後》

特になし。

### 事後ミーティング、改善事項の洗い出し

#### 【総社小の先生より】(実施後に口頭で)

- ・ 天候の面で予定のプログラムがほとんどできなかったが、柔軟に対応していただいた。
- ・ 代替プログラムだったが最後にA P Pを全員で体験でき、グループみんなでひとつのエレメントに挑戦できた。やり遂げて大変うれしかった。
- ・ 4月当初、ここまで関わってもらえると思っていたいなかった。来年も関わっていただけなら教員の負担は相当減ると思う。

#### 【全体指導者より】

- ・ 子どもたちの生の姿にふれられて大変勉強になった

#### 【職員より】

- ・ 活動場所について

今回はたまたま隙間をぬって活動場所を入れていったが、同じ期間に受け入れている団体数が多すぎるので、活動の制約が多い

- ・ 今後の方向、可能性について

すでに先行予約で希望を提出済みなので、来年も2泊3日で実施。

プログラム企画の段階でもう少し関わりを強めることは可能。

- ・ プログラムについて

雨でほとんどのプログラムを変更したので、予定通り川遊び、滝までのハイキングができていたらどうだったかなと思う。

# 試行実施（学校受入）事業報告

報告者：広沢 晋吾（平成24年11月15日）

学校名：前橋市立白川小学校（児童数：26名、引率者：3名）  
実施日：平成24年7月25日（水）～27日（金）2泊3日  
プログラム：赤城山登山（駒ヶ岳）カッター、AAP、ナイトシアター  
担当者：広沢・大沢（全体指導者：松本 豊氏）

## 指導・支援の内容

### 実施前

#### 支援してもらいたいことの洗い出し(ニーズ調査)

- 野外活動ならではのプログラムをいれたい。
- 子どもたちが協力して行う場面やプログラムを取り入れたい。
- 登山を実施するにあたりサポート体制をおねがいしたい。
- 思い出に残る大切な2泊3日になるようにしたい。

#### 事前学習の実施について

内容は、

- ・学校が本施設に近いので、自然環境や施設のことについて行っていない。  
学校側からも希望はなかった為

#### プログラム内容のアドバイス

- ・登山の場所
- ・AAPの目的や意義についての紹介
- ・ナイトシアターの紹介

#### 生活時間の調整

- ・食事・入浴時間とプログラムとの調整について
- ・天候に応じての食事や休憩の場所（登山・ナイトシアター）

上記等の調整を、所で打合せ2回、電話でのやりとり4～5回おこなった。

### 当日

#### 行程への随行

AAPの時間以外は本隊に同行。

#### 活動プログラムに係るマネジメント

- ・オリエンテーリング・ボンファイヤー・ナイトシアター・野外炊事の準備・片付け、説明等を含めた指導及び補助を全体指導者の方に担当してもらった。

### 生活面での支援

#### ・トイレ、荷物置き場、食堂内の誘導、シーツの受け渡し、入浴

- ・生徒が少ないため、先生方から支援は特にいりませんとのことで特に行っていない。

### 活動写真の記録

- ・先生が写真・ビデオをとっており、事前の打ち合わせでも記録のサポートはいらないということであったので行っていない。

所の記録用としての写真撮影のみ行った。

また、記録写真を活用して本所のHP「トピックス」に掲載の許可を頂き、掲載させていただいた。

### スタッフミーティングへの参加

- ・1日目2日目とも夜10時よりミーティングに参加。3日目については、事後に反省を含め行った

## 学校側の感想、反省点、改善事項等

### 【先生方より】

#### 事前

- ・スタッフの方と事前に細かい部分まで内容等を詰めさせていただいたおかげで、子供達にたくさんの経験・体験をさせてあげることができた。
- ・今回、登山をプログラムに入れたが事前の下見を一緒におこなえばよかった。（今回は日程が合わずに、学校、交流の家スタッフが別々に下見を行いすりあわせを行った。）

#### 当日

- ・オリエンテーリングや幻灯会（ナイトシアター）では、スタッフの方のおかげで自然の中での貴重な体験をさせてあげることができて本当によかった。
- ・たくさんの目で子供達をみることができたので子供達の健康面や安全面に十分に配慮することができた。
- ・スタッフの方がいることで多くの突発的に起こるトラブル等をすぐに解消することができた。
- ・活動の中でスタッフの方がいろいろな場面で子供達に言葉かけをしてくれたことで楽しく活動ができ大変よかった。そこで、忙しい中でも交流の家のスタッフの方に一度来て頂き、林間学校の事前学習の時間で紹介させていただくとスタッフの方との関係がより深まったのではないかと感じた。

### 【全体指導者より】

- ・前日入りして打ち合わせをしましたが、赤城をそんなに理解していないので不安なところがあったが、毎日、スタッフミーティングを入念に行っていたことで子どもたちへ適切なサポートや指導が自分なりになんとか行えて良かった。さらに、職員2名との連携で自分の中でたくさんの学びがあったとともによい経

験をさせていただいた。次回もサポートさせて頂きスキルアップを図りたい。

#### 【職員より】

##### （改善点）

- ・団体との距離感が感じられたので、やはり事前に学校へ出向いて関係教員全員（生徒含む）と顔合わせを行っておくと更に連絡等がスムーズにいったと思う。
- ・担当が実施期間中に宿直に当たっていると不都合が生じるので事前に確認し調整が必要である。
- ・プログラムをデザインする段階から関わっていたほうが、安全面や生徒達の体力面などの配慮ができたのではないかと。今回は、活動を詰め込みすぎた感がある。
- ・3人のそれぞれの担当が適材適所であったので良かった。
- ・担任の先生も我々の出る場所を提供してくれていた。今回、電話のやりとりが中心であったが、かなり分担を煮詰めることができた。

##### （良かった点）

- ・団体の安全面を第一に考え学校の先生方と打ち合わせをしたことで信頼感をもって頂けた。
- ・先生方とサポートスタッフとの分担はよく行えていたと思う。
- ・学校側からは、小規模の学校なため、人出の部分で助かった等の声があった。また、プログラムを行う上で相談がすぐにでき不安材料が解消され子供達に充実した活動を提供することができた。

##### （その他）

- ・食事では、バイキングなので、子供達が残さなくて良いとおもった等の感想があったと同時に朝から食堂内が暑く子供達の食が細く感じたのでできれば、冷房を入れてもらえるとうれしいとの声があった。

### 全体的な評価

#### （狙いの達成度）

学校側は、事前の段階からサポートスタッフがかかわることで細かな部分まで確認することができ安心して活動することができた。また、白川小学校は規模が小さく引率の教員が少ないため、さまざまな活動において安全面などの心配を抱えなくてはならないが、今回は、そういった面も軽減され生徒達には十分に自然体験活動を体験させることができ大変よかったということであった。

その他として：白川小学校は、当施設とあまりにも近いため、保護者は、もう少し遠く、或いは環境が違うところで行ってほしいとの声が強いのことであった。

#### （コストパフォーマンス）

今回は、自然のなかではの体験として登山が当初から組み込まれていたが、その他に、こちら側からA A Pならびにナイトシアターを提供した。さらに、天候に左右されずに行えるボンファイヤーもプログラムに組み込む。



# 試行実施（学校受入）事業報告

報告者：根岸 登（平成 24 年 9 月 8 日）

学校名：前橋市立清里小学校（児童数：26 名、引率者：5 名）

実施日：平成 24 年 8 月 30 日（木）～9 月 1 日（土）

プログラム：赤城山登山（地蔵岳）、ネイチャーウォーク、オリエンテーリング  
キャンプファイアー、はがきづくり

担当者：根岸・井上

## 指導・支援の内容

実施前

### 1 回目事前打ち合わせ 6 / 7 実施

交流の家にて、室長による趣旨説明のあと、担任と主担当とで、1 回目の事前打ち合わせを行った。（学校訪問して行おうと思っていたが、先に下見に来るとの連絡があったため）

自然とのふれあいを重視した林間学校にしたい

活動計画は昨年度まで行っていたものをベースに、交流の家でできるものを紹介し、雨プロも含めて決定した。（定番のものをやらせたい）

児童たちの事前学習の際に、交流の家職員が学校を訪れて説明することもできる旨を伝えたが、特に必要でないとのことであった。

### その後の打ち合わせ

電話で、細かい内容の確認や質疑応答を 5 ～ 6 回行った。

（施設のこと・講師のこと・プログラム内容や時間のこと・支払いのことなど）

特別支援学級の児童に映像で交流の家を説明するため、改めて特別支援学級の担任が映像を撮影しに来所。（館内や周囲の散策道などを下見） 案内

### 学校職員の事前打ち合わせに参加 8 / 27

清里小を訪問し、学校職員間の打ち合わせに参加させてもらい、当日の動きや役割の分担、気になる点について話し合った。

当日

### 行程への随行

地蔵岳登山口で、自然体験活動全体指導者（梶原さん）と共に合流。梶原さんの指導の元、登山を行った後、交流の家に入所。梶原さんは 1 日目の登山と 3 日目の野

外炊事の指導に関わった。

### 生活面のサポートについて

食事・入浴・宿泊等での指導など、生活に関わる場所は先生方に担当していただき、交流の家職員は主にプログラム活動で関わるようにした。(学校側の要望)

### プログラム活動のサポートについて

小規模校で学校職員の数も少ないため、各プログラムの説明の他、班の引率やチェックポイント担当など、積極的に子どもたちと関わりながらのサポートを担った。

### 職員ミーティングへの参加

1日目2日目ともに宿泊棟で行われた職員のミーティングに参加し、その日の反省と次の日の打ち合わせを行った。

実施後

### 学校職員との事後ミーティング 9/7

清里小で、主担当・担任・教頭で行った。学校職員の間での事後ミーティングは終えており、その結果を踏まえての話し合いが行われた。 詳細は次頁以降参照

## 事後ミーティング、改善事項の洗い出し

【清里小の先生方より】(実施後に口頭で)

- ・小規模校で教員の数が少なかったため、交流の家職員の方に張り付きで入っていただき、本当に助かった。
- ・CFや葉書づくりなど、講師依頼した活動が大変良かった。予算の関係があるが、来年度はなるべく講師依頼したいと感じた。
- ・子どもたちにOLやNWが好評だった。森を歩く前の職員の方の話(自然界に人間がお邪魔させてもらう)も学校職員ではなかなか気づけない(話せない)視点でよかった。
- ・自然体験活動全体指導者の方が引率してくれた登山は、工夫の余地がある。(登山のペース・休憩場所の選定・赤城山に関する解説・覚満淵で活動プログラムなど)
- ・小規模校では予算の関係で創作活動を複数用意することが難しいが、児童が選択できるとよい
- ・部屋に余裕があれば、保健室用に一部屋確保してあると使い勝手がよい
- ・何かあったときの情報を得るためにリーダー室にテレビがあるとよい

- ・利用ガイドにある「宿泊室の片付け方」のように、野外炊事など活動プログラムの説明も1シートでまとめられたものがあると、しおりに入れられてよい。
- ・同じ宿泊棟に入っていたスポーツ少年団の男子がうるさかった。他にもルール違反があり、そのような団体は入れてほしくない。
- ・試行実施校はどのように決まっているのか知りたい

### 【全体指導者より】

- ・登山行程は良くできたと思う。
- ・山頂での説明は5年生向きではなかったようなので、もう少し工夫したい。
- ・登山途中や覚満淵で山野草の解説ができるよう勉強したい。

### 【職員より】

(実施前)

- ・今回は必要ないとのことだったが、事前に学校訪問して、児童と触れ合いながら施設の説明や交流ができるとよかった。
- ・プログラム内容に、職員の手によるプレミアム感を出せるとよかった  
プレゼンテーション力の向上  
綿密な打ち合わせ
- ・学校職員の登山下見に帯同できていたらよかった。(日程が合わず断念)

(実施中)

- ・登山についての指導を全体指導者ともっと詰めておくべきであった。
- ・生活に関する活動(部屋・風呂・食事・児童の反省会)については、学校職員任せであったが(学校の意向)児童の反省会には参加させてもらい、児童の感想や意識を得て、その後の活動に活かすべきであった。
- ・教員の、手の空いている人と、忙しい人に差がありすぎていると思う。  
林間学校の組織作り段階でのアドバイス

(実施後・今後)

- ・事後指導で学校訪問して協力できることがあればしたい  
赤城の自然の話 レクリエーション指導 事業の紹介など
- ・来年度、2泊3日ではなく、1泊2日を2回実施する案を提案  
難しいとの意見 また前橋市は市の規定で2泊と決まっているらしいとの回答

# 平成 24 年度 国立赤城青少年交流の家運営計画

## ．基本方針

### 1．理念

私たちは、青少年教育に携わる者として、

感性豊かで、

まわりの人や自然を大切に思い、

どんなことにも意欲的に取り組む

人を育てることを目指します。

### 2．私たちの目標

- (1) 利用者の活動がより良い成果をあげられるよう支援を行います。
- (2) 赤城の「自然環境を活用した活動」や「青少年のための活動」の開発と、事業の提供を行います。
- (3) 地域の青少年教育団体や施設、自然体験活動指導者などとの、協働による、新しい事業形態を開発します。
- (4) 安全で使いやすく清潔な施設管理をします。
- (5) 日常の定例的業務を適切に処理しつつ、更に効率的な管理運営のため改善を続けます。

### 3．私たちの姿勢

- (1) 明るく挨拶をします。
- (2) まず第一に利用者のことを考えます。
- (3) しかし、間違っていることは、間違っていると言える信念も持ちます。
- (4) 施設職員全員が指導者としての研鑽を怠りません。
- (5) 健康で、清潔であることを心がけます。

## ・事業推進室（企画指導専門職・事業推進係）

### 1. 事業について

本所の理念を実現するために以下の事業に取り組む。

#### (1) 研修支援事業

利用者に対して、研修プログラムの相談や研修活動に対する指導や支援を行う。

##### ( ) 受入業務

「安全で使いやすく清潔な施設管理」「日常の定例的業務の適切な処理・効率的な管理運営」を目標とし、利用者に対する受入から退所までの一連の支援を行う。

##### ( ) 指導業務

「利用者の活動がより良い成果をあげられるよう支援を行う」ことを目標とし、利用者の研修・活動に対する直接指導・間接指導等を行う。

#### (2) 主催事業

本所が主体的に事業を計画・立案し、参加者を募集して事業を行う。

##### ( ) 教育事業

「自然環境を活用した活動・青少年のための活動と、事業の提供」を目標とし、子ども・青少年を対象に体験活動の機会を提供する。

##### ( ) 地域協働・広報事業

「青少年教育団体や施設、自然体験活動指導者などとの協働による、新しい事業形態の開発」のために、それらの団体等と連携した事業の展開を検討し、実施する。また、広報活動のための体制の整備と充実を図る。

##### ( ) 教材・事業開発

新しい教材や活動プログラム、事業の開発を進める。

##### ( ) 試行実施による、団体の受け入れの指導と支援

これまでにない方式で、団体の受け入れを実施する。

### 2. 実施する事業

#### (1) 研修支援事業

##### ( ) 受入業務

利用者の確保

##### ア 研修利用の促進

- ・ 効果的な日程調整やプログラム、会場調整を行う。
- ・ リレーションシップ事業等により、閑散期の利用者確保に努める。

##### イ 利用統計の充実

- ・ 本部システムを活用し、利用者確保に繋がる統計の充実を図る。

利用者サービスの向上

##### ア 利用案内の充実

- ・ 利用ガイド（施設理解と利用の仕方など）を簡単に、わかりやすく編集する。

- ・ 施設見学や下見の充実を図る。
- ・ 見やすい，わかりやすい表示，掲示及び説明を心がける。

#### **イ 受入に関する業務フローの改善**

- ・ 予約受付システムの簡素化を図る。
- ・ 受入処理の迅速化に努める。
- ・ 利用者との行き違いをなくすための対応を心がける。

#### **ウ 入所受付・退所処理の簡素化と迅速化**

- ・ 内容の簡素化を図る。
- ・ 迅速な対応をするために，職員の人員配置を工夫する。

#### **エ 電話・窓口業務の充実**

- ・ 笑顔で，的確で，心温まる対応を心がける。
- ・ 迅速な対応を心がける。
- ・ 利用者を第一に考えた対応，利用者の立場に立った対応を心がける。
- ・ 毅然とした態度での対応を心がける。

#### **オ 利用環境の充実**

- ・ 貸出用具など物品の管理，整理を行う。
- ・ 空調機などの有効利用を心がける。

#### **カ 食堂との連携**

- ・ 食堂業務委員会の充実を図り，利用者が満足する食事を提供する。

#### **キ 利用団体の管理**

- ・ 利用者データベースを用いて，利用者対応の向上へつながる情報を収集するとともにその活用を図る。
- ・ 赤城システムやホワイトボード等を活用して，利用団体の管理を行う。

#### **安全対策の向上**

##### **ア 安全マニュアルに沿った対応**

- ・ 定期的に安全マニュアルの見直しを行う。
- ・ 日常業務においてすぐに活用できるよう，安全マニュアルを配備する。

##### **イ ヒヤリ・ハットの収集とその活用**

- ・ 全職員がヒヤリ・ハットの収集と蓄積を行う。
- ・ ヒヤリ・ハット集の読み合わせ会を実施する。

##### **ウ 活動上の安全対策**

- ・ 危険や健康被害に関する情報を収集し，職員への周知徹底を図る。
- ・ 危険や健康被害に関する情報を収集し，利用者への周知を図る。(入所受付，活動前の担当者との打合，活動前のレクチャー，代表者会議)

##### **エ 施設点検の充実**

- ・ 他の係と連携をとりながら，危険箇所の排除や修繕に努めるとともに，利用者への周知を図る。

##### **オ 代表者会議の充実**

- ・ 宿泊人員の再確認を行う。
- ・ 健康状態の確認を行う。

- ・ 健康，安全に関する連絡を行う。

#### カ 緊急時の対応

- ・ 地震や火災，不審者への対応について定期的な訓練を行い，対応マニュアルの再確認を行う。
- ・ 感染症発生時の対応について定期的に見直しを行う。

### ( ) 指導業務

#### 利用者への指導・支援の充実

##### ア プログラム相談

- ・ 団体の利用目的を明確にし，懇切丁寧な活動プログラムデザイン作成のための相談を心がける。

##### イ 指導者の割り振り

- ・ 利用者サイドに立った指導者の割り振りを行い，活動の充実のための指導・支援を行う。
- ・ 効果的かつ有効な指導者の割り振りを工夫する。

##### ウ 活動プログラムの見直し

- ・ 団体の利用目的達成と指導・支援の充実の両観点から活動プログラムを見直す。

##### エ 指導技術の向上

- ・ 定期的なOJTを実施し，オリエンテーションや各活動プログラムの理解を深めるとともに，指導技術の向上を図る。

##### オ 非常勤職員との連携

- ・ 団体の利用目的達成のための活動内容や指導・支援のあり方について定期的に情報交換を密にする。
- ・ 定期的な情報交換会や職員との合同研修を行うことにより，指導・支援に対する意思の疎通を図るとともに，指導技術の向上を図る。

### (2) 主催事業

#### ( ) 教育事業

##### 仲間作り

本所の理念『感性豊かで』を受け，「自分や周りの人との関係を大切にできる」青少年を育てるために以下の事業を開催する。

##### ア 6泊7日小学生キャンプ(仮称)

自然の中での6泊7日のキャンプを実施し，友だちとの信頼関係を構築したり，自力で困難を克服したりする体験を通して，小学生の生活力を高める。

##### イ 障がい児キャンプ(仮称)

障がいのある子どもと健常児との共同生活を通して，お互いの助け合いの精神を築いたり心のバリアーを取り除いたりする。

##### ウ あかぎ多文化共生推進プロジェクト(仮称)

外国人学校の児童生徒が日本文化を直接体験することを通して，日常生

活の中で、日本人や日本の社会に交わろうとする意欲を育む。

## 環境教育

本所の理念『自然を大切に思い』を受け、「地域の生態系を大切にできる」青少年を育てるために以下の事業を開催する。

### ア あかぎ環境教育入門講座（仮称）

本所の自然環境を活かし、自然の美しさや環境保全の大切さを「五感」を通して伝えられる環境教育の指導者を養成する。

### イ 森林再生プロジェクト（仮称）

民間団体や学校などと連携を取りながら、数十年先を見据えて計画的に植林・森林整備を進めることにより、本所周辺の荒廃した環境を、将来の理想の森として復元していく。

### ウ ミクロネシア諸島自然体験交流事業

太平洋諸島の子どもたちを日本に招聘し、自然・異文化・同世代の人々との交流などの体験活動を行い、子どもたちに自然のすばらしさ、共存することの大切さを学ぶ機会を提供する。

## 人材育成

本所の理念『意欲的に取り組む』を受け、「意欲的な生き方を自ら示せる」青少年の育成や、それを担う指導者の養成のために以下の事業を開催する。

### ア 自然体験活動指導者養成研修

本所の自然環境や体験活動プログラムを活かして、学校や地域で自然体験活動の指導や補助ができる人材を育成する。

### イ ボランティア養成研修会

ボランティアに対する知識を学習したり、人間関係を構築するための技術を習得したりして、社会に積極的に関わろうとする若い人材を育成する。

### ウ 教員免許状更新講習

本所の自然環境や人間関係を構築するためのプログラムの体験を通して、教員の資質向上を図る。

## ( ) 地域協働・広報事業

### 地域貢献

#### ア 小学生キャンプ

地域の子どもたちのために、日帰りや1泊2日のキャンプを実施する。

#### イ さくらフェスタ

地域の方々を対象に花見のフェスティバルを開催し、本所の施設やプログラムに関心を持ってもらう。

#### ウ 群馬の歴史探訪ツアー

地域の歴史に親しみを持ってもらうために、地域にゆかりのある有名武将のその後を訪ねるツアーを開催する。

#### エ 祝日デイキャンプ

子どもの日や敬老の日など、祝日に合わせたテーマで日帰りのイベントを開催する。



## オ スポーツカップ大会

本所を多くの子どもたちに利用してもらうとともに、各種スポーツを通して子どもたちの体力の向上を目指す。

## カ 体験の風をおこそう運動

機構本部の実施する「体験の風をおこそう運動」を受け、所外に出て活動を推進する。

## キ 子どもゆめ基金説明会

近隣の民間団体を対象にしたゆめ基金の利用について、よりわかりやすく申請ができるよう説明会を開催する。

## 広報

本所の活動を広く一般の方々に知ってもらうため、広報活動のための体制の整備と充実を図る。

### ア あかぎアドベンチャープログラム体験会の実施

本所のプログラムを体験することにより、プログラムに対する理解を高めてもらうとともに、青少年教育施設としての本所のねらいなど理解してもらう。

## イ 広報に係わる業務

### ・カラゴロリの発行

本所の理解を深めてもらうために、利用団体や地域の団体・指導者などに、定期的に本所の活動を載せたニュースレターを発信する。

### ・Webページの充実

各係やWeb管理委員会等と連携しながら、Webページの充実を図る。

### ・リーフレットやちらしの配布

閑散期等の利用を増やすため、大学生や地域の市民サークル等を対象としたちらしを作成し、地域の施設や大学の協力を得て効果的な配布に努める。

### ・事業を活用しての広報

リレーションシップや体験の風等の事業を生かして、本所の活動及び本所が宿泊可能な青少年教育施設であることを広く周知する。

### ・マスメディアを利用した広報（ラジオ，新聞，広報誌など）

地元のFM局や上毛新聞，広報誌等を活用して、本所の事業をとともに本所が宿泊可能な青少年教育施設であることを広く周知する。

### ・掲示物（ポスター），展示物

館内の掲示板や棚等を効果的に活用し、利用者の本所に対する理解を

高める。

## ( )教材・事業開発

### 実施するもの

#### ア ものづくりのプロに学ぼう

地域に住むものづくりのプロを本所に招聘し、その手法を学び、本所のプログラムとして活用していく。

### イ みそ汁プロジェクト

一杯の味噌汁の中身をみんなで考え、いっしょに味噌や味噌汁をすることによって自然の恵みを体感したりすることで、仲間との絆を深める。

### ウ 親子天文ツアー

親子でぐんま天文台を訪れ天体観察をしたり、本所で野外炊事をしたりすることで、親子の絆を深める。

## 検討するもの

### ア 赤城自然エネルギーの家体験

環境に配慮した施設の運営を行うとともに、その設備を利用した環境教育プログラムを通して、来所者に環境保全への興味関心を育む。

### イ 森のようちえんプロジェクト

県内幼稚園から、日帰りで幼稚園生の受け入れをし、あかぎの森の中で様々な自然体験を経験する。

### ウ 週末は森の学校へ行こう

地域の団体と連携し、あかぎの森に限定せず様々な場所で森の学校を開催して、自然に親しむ。

## 開発するもの

### ア 雨天時の活動プログラムの開発

雨天時に中止となる野外活動にかわる活動プログラムを開発する。

### イ 閑散期（冬）の活動プログラム開発

閑散期に利用者呼び込めるような活動プログラムを開発する。

### ウ 創作活動教材開発

利用者が意欲的に取り組めるような創作活動を開発する。

## ( ) 試行実施による、団体の受け入れの指導と支援

担当職員による継続した相談・指導・支援

学校を訪問してのプログラム相談、事前指導および事後指導

入所から退所までの計画的な指導・支援

震災で被災した子どもたちを支援する団体の支援

団体を支援するための広報や研修の実施

## ( ) 非常勤職員と法人ボランティア等の活用

教育事業での運営補助や活動支援

各事業の運営補助をしたり、参加者の活動の支援をしたりする場を積極的に設ける。

地域貢献事業での運営補助

各事業の運営補助をしたり、参加者の活動の支援をしたりする場を積極的に設ける。

教材・事業開発への参画

新しい教材の開発や新規事業の開発のプロジェクトへの参加を促す。

施設設備等の維持管理支援

施設や設備等の維持管理への参加を促す。

## ・総務係

### 1．職員の能力向上，健康管理，福利等

#### (1) 職員の技能向上のための研修

職員の技術，能力を向上させ，利用者への支援の充実を図るため，以下のことを実施する。

##### ( ) 研修体系の確立

必要な能力・技術を分析し，研修体系を確立する。

##### ( ) 研修計画の立案

年度当初に研修計画を立て，必要に応じて随時見直す。また，研修方法は，研修会等への参加の他，所内研修を行う。

必要な技術・能力等

各種活動プログラム指導技術

防犯，救急救命等の能力

危機管理，安全管理等及び事務（総務・管理，受け入れ）

##### ( ) 研修方法の工夫

所内研修については，指導技術の相互評価を行う等，研修の効果を上げるための工夫をする。

#### (2) 職員の健康維持等

職員の健康を維持・促進し，身だしなみに気をつける。

##### ( ) 安全衛生管理

職員の勤務状況を常に把握し，必要に応じて健康管理のための助言を行う。利用者等の状況により，職員の負担の少ない勤務割振をする。

##### ( ) 身だしなみ

ドレスコードを常に見直し，朝礼等においてお互いにドレスコードチェックを行う。

#### (3) 職員の福利等

##### ( ) モチベーションの向上

職員が積極的に勤務意欲の向上を図れるよう，的確かつ迅速な情報提供を行う。

##### ( ) 職場環境の整備

コミュニケーションの場・機会を提供するなど，職員が働きやすい職場環境を整備する。

### 2．文書の作成・管理

#### (1) 文書の作成・決裁

決裁方法の統一化を図る。原議書の作成マニュアルの見直しをする。

#### (2) 文書の管理

利用しやすい文書ファイルの保管方法を検討する。（置き場所や背表紙等）

## ．管理係

### 1．予算計画

#### (1) 方針

##### ( ) 収入

自己収入を確保し，運営のための財政的基盤を安定させる。また，事業助成のための外部資金の獲得を検討し，その事業の実施に適した助成金等があれば積極的に活用する。

##### ( ) 支出

単純に前年度比で予算額を設定せず，本所の運営及び利用者にとって，真に必要な事項を精査して編成に応用する。見込額と実績額との開きを極力少なくするようにし，無理や無駄のない予算計画を作成する。

#### (2) 執行計画

別紙参照

### 2．執行管理

#### (1) 一般管理費等の効果的な執行

過去の事情にとらわれず 現在の事情に当てはめて必要な執行であるかどうかを判断して執行する。

#### (2) 外部委託の推進

草刈り等の作業について，可能なものは外部委託業者に委託して職員の負担を軽減する。

### 3．施設・設備の維持管理（修繕・更新等）

#### (1) 物品の管理状況の把握と計画的な調達

教材教具，事務消耗品，機器備品，寝具，清掃用具等の保有数と状態を確認し，各物品の適切な更新時期，廃棄時期を見極め，長期的視野に立った年次購入計画を策定し，プランに沿った更新を行う。

#### (2) 施設・設備の管理状況の把握と計画的な整備

各エリア施設，設備について，複数年にわたる更新計画を作成し，そのプランに沿った更新を行う。

### 4．環境等への配慮

#### (1) 節電計画

1年を通じて節電計画を策定する。特に夏季と冬季の電力ピーク時期については詳細な計画を立て，利用者にも協力を呼びかける。

#### (2) 「あかぎ自然エネルギーの家」化計画

太陽光や雨水を利用した照明・空調装置を導入し省エネルギー化を図るとともに，所内全体が1つの大きな環境教育の「ツール」となるようなシステムを構築する。

## ・項目毎の達成目標と自己点検・評価方法

### 1．各項目の実施方法

上記， ～ に掲げた計画事項については，各職員に業務割当てし，当該職員の人事評価における目標に落とし込む。当該職員は，運営協議会委員と相談の上，具体的な達成目標や実施方法，日程，結果の自己点検方法等を定め，2ヶ月に1度程度当該運営協議会委員と進捗状況や実施方法等確認しつつ，実施するものとする。所長及び次長は，期首，期末及び運営協議会委員との打ち合わせがない月に職員と面談を行い，進捗状況の確認，必要な指導・支援を行う。

### 2．各項目の達成目標

人事評価の目標に落とし込む際は，可能な限り具体的な達成目標を明記するものとする。特に，利用者数12万2000人以上，宿泊室稼働率54%以上及び平成24年度中に職員1名を減らす等を本所の経営目標とする他，林間学校等の学校利用の場合の新たな指導・支援のあり方の確立，及び効果的な活動となるような「学ぼう！活かそう！ぐんまの体験学習」（データブック）の活用方法の確立を目指す。

### 3．自己点検・評価方法

各担当職員の人事評価における達成度の確認がそのまま自己点検となるとともに，所長が行う，全体を総括しての達成度の確認が本所としての自己点検となる。具体的な数値目標が掲げられた場合は，数値確認を行い，達成出来ていない場合は，原因調査等を行う。

事業参加者や利用団体からのアンケートを工夫し，計画事項について正確な意見を聴取できるようにする他，出来る限り口頭で感想を得る。結果を運営協議会に報告し，評価を受ける。所長は，運営協議会の評価を総括し，改善に向けて適宜職員の指導・支援を行う。

平成24年度 赤城青少年交流の家 予算一覧

単位：円

予算事項	収入見込	支出見込	残額見込
一般管理費	72,390,690	72,246,000	144,690
教育事業経費	10,557,000	7,814,300	2,742,700
委託事業経費	538,000	538,000	0
特殊事業経費	548,200	548,200	0
ゆめ基金事業経費	2,387,663	2,387,663	0
試行事業経費	1,500,000	1,500,000	0

平成24年度 赤城青少年交流の家 一般管理費 予算収支内訳

【収入見込】

事項	収入見込
運営費交付金	54,030,000
施設使用料収入	6,729,750
シーツ等洗濯収入	8,982,940
財産貸付料収入	99,000
自販機設置手数料収入	2,549,000
合計	72,390,690

【支出見込】

事項	支出見込
業務委託費	20,591,000
寝具類経費	6,205,000
光熱水料	18,969,000
燃料費	1,150,000
土地建物借料	3,201,000
自動車維持費	500,000
会議費	160,000
旅費交通費	250,000
その他運営経費	19,220,000
各所修繕維持管理費	2,000,000
合計	72,246,000

残額見込(収入 - 支出)	144,690
---------------	---------

運営費交付金は前年度比 3%とした。

施設使用料収入, シーツ等洗濯料収入については, 平成24年1月13日時点における平成24年度予約受付状況をもとに計算した。

施設使用料収入は, 平成24年7月1日以降の利用については改定後の料金(現行250円 改定後800円)で計算した。

財産貸付料収入, 自販機手数料収入については, 平成23年度実績と同額とした。

支出見込について, 各事項において必要とされる経費を積算した。ただし, 寝具類経費, 土地建物賃借料, 自動車維持費, 会議費については前年度と同額とした。

平成24年度 赤城青少年交流の家 教育事業経費 予算収支内訳

【収入見込】

事項	収入見込
運営費交付金収入	6,633,000
特定研修活動実施経費(実費分)	3,924,000
<b>合計</b>	<b>10,557,000</b>

【支出見込】

事項	事業名(仮称)	支出見込
教育事業経費	6泊7日小学生キャンプ	622,000
	障がい児キャンプ	393,000
	あかぎ多文化共生推進プロジェクト	160,000
	あかぎ環境教育入門講座	211,300
	森林再生プロジェクト	135,000
	ボランティア養成研修会	265,700
	小学生キャンプ	464,900
	祝日デイキャンプ	245,200
	あかぎアドベンチャープログラム体験会	148,000
	ものづくりのプロに学ぼう	117,600
	森のようちえんプロジェクト	321,600
	週末は森の学校へ行こう	30,000
	赤城における創作活動の教材開発	300,000
研修支援事業経費	研修支援事業消耗品費	1,000,000
	通信運搬費	200,000
	ボランティア旅費	100,000
	非常勤職員・ボランティアスタッフ情報交換会	100,000
特定研修活動実施経費	研修指導員に係る人件費	3,000,000
<b>合計</b>	<b>7,814,300</b>	
残額見込(収入 - 支出)		2,742,700

運営費交付金は前年度比 1%とした。

支出見込について、各事項において必要とされる経費を積算した。



平成24年度 赤城青少年交流の家 委託事業経費 予算収支内訳

【収入見込】

事項	収入見込
委託事業費収入	538,000
合計	538,000

【支出見込】

事業名(仮称)	支出見込
自然体験活動指導者養成研修	538,000
合計	538,000

残額見込(収入 - 支出)	0
---------------	---

平成24年度 赤城青少年交流の家 特殊事業経費 予算収支内訳

【収入見込】

事項	収入見込
教員免許状更新講習料収入	548,200
合計	548,200

【支出見込】

事業名(仮称)	支出見込
教員免許状更新講習	548,200
合計	548,200

残額見込(収入 - 支出)	0
---------------	---

委託事業経費, 特殊事業経費, ゆめ基金事業経費, 試行事業経費については, 残額が生じても他の予算に回すことができないため, 収入見込額 = 支出見込額とした。

平成24年度 赤城青少年交流の家 ゆめ基金事業経費 予算収支内訳

【収入見込】

事項	収入見込
ゆめ基金事業費収入	2,387,663
合計	2,387,663

【支出見込】

事業名(仮称)	支出見込
さくらフェスタ	640,000
スポーツカップ大会	1,211,273
子どもゆめ基金説明会	208,600
群馬の歴史探訪ツアー	41,695
みそ汁プロジェクト	69,400
親子天文ツアー	11,695
赤城自然エネルギーの家体験	205,000
合計	2,387,663
残額見込(収入 - 支出)	0

平成24年度 赤城青少年交流の家 試行事業経費 予算収支内訳

【収入見込】

事項	収入見込
委託事業費収入	1,500,000
合計	1,500,000

【支出見込】

事業名(仮称)	支出見込
試行実施事業経費	1,500,000
合計	1,500,000
残額見込(収入 - 支出)	0

# 平成24年度 国立赤城青少年交流の家 事業一覧

予算	事業名(仮称)	概要	期間	予算額(単位:円)	前年度執行額
----	---------	----	----	-----------	--------

中間作り事業	教	6泊7日小学生キャンプ	自然の中での6泊7日のキャンプを通して、友だちとの信頼関係を構築したり、自力で困難を克服したりする体験を通して、小学生の生活力を高める。	8月17～23日	6泊7日 1回	622,000	977,633
	教	障がい児キャンプ	障がいのある子どもと健常児との共同生活を通して、お互いの助け合いの精神を築いたり心のバリアーを取り除いたりする。	9月22～23日、 11月3～4日	1泊2日 2回	393,000	
	教	あかぎ多文化共生推進プロジェクト	外国人学校の児童生徒に日本文化を直接体験させることを通して、日常生活の中で、日本人や日本の社会に交わろうとする意欲を育む。	10月、12月、 平成25年1月、2月	未定	160,000	

環境教育事業	教	あかぎ環境教育入門講座	本所の自然環境を活かし、自然の美しさや環境保全の大切さを「五感」を通して伝えられる環境教育の指導者を養成する。	9月8～9日	1泊2日 1回	211,300	100,000
	教	森林再生プロジェクト	民間団体や学校などと連携を取りながら、数十年先を見据えて計画的に植林・森林整備を進めることにより、本所周辺の荒廃した環境を、将来の理想の森として復元していく。	未定	5回	135,000	

カテゴリー	予算	事業名(仮称)	概要	期間	予算額(単位:円)	前年度執行額
人材育成事業	委	自然体験活動指導者養成研修	本所の自然環境や体験活動プログラムを活かして、学校や地域で自然体験活動の指導や補助ができる人材を育成する。	11月23～25日 2泊3日 1回	538,000	548,131
	教	ボランティア養成研修会	ボランティアに対する知識を学習したり、人間関係を構築するための技術を習得したりして、社会に積極的に関わろうとする若い人材を育成する。	5月19～20日 1泊2日 1回	265,700	728,928
	特	教員免許状更新講習	本所の自然環境や人間関係を構築するためのプログラムの体験を通して、教員の資質向上を図る。	8月1～3日 2泊3日 1回	548,200	726,000

小学生キャンプと合算

前年度執行額

ボランティア養成研  
修会の額に合算

カテゴリー	予算	事業名(仮称)	概要	期間	予算額(単位:円)
地域協働・広報 事業	教	小学生キャンプ	地域の子どもたちのために、日帰り や1泊2日のキャンプを実施する。	6月, 7月, 9 月, 10月 日帰り, 1泊2日 4回	464,900
	ゆ	さくらフェスタ	地域の方々を対象に花見のフェス ティバルを開催し, 本所の施設やプロ グラムに関心を持っていただく。	4月14日	640,000
	ゆ	群馬の歴史探訪ツアー	地域の歴史に親しみを持ってもら うために, 群馬にゆかりのある有名武 将のその後を訪ねるツアーを開催す る。	10月6日, 11 月3日	41,695
	教	祝日デイキャンプ	子どもの日や敬老の日など, 祝日に 合わせたテーマで日帰りのイベントを 開催する。	こどもの日 敬老の日 勤労感謝の 日	245,200
	ゆ	スポーツカップ大会	本所を多くの子どもたちに利用して もらうとともに, 各種スポーツを通して 子どもたちの体力の向上を目指す。	3月, 6月, 7 月, 10月, 12 月, 平成25 年2月, 3月	1,211,273
	ゆ	子どもゆめ基金説明会	近隣の民間団体を対象にした子ども ゆめ基金の利用について, よりわかり やすく申請ができるよう説明会を開催 する。	未定	208,600
	教	あかぎアドベンチャープロ グラム体験会	本所のプログラムを体験することに より, プログラムに対する理解を高め てもらおうとともに, 青少年教育施設とし ての本所のねらいなど理解してもら う。	8月28日, 10 月20日, 平 成25年1月 19日	148,000

2,939,000

前年度執行額

カテゴリー	予算	事業名(仮称)	概要	期間	予算額(単位:円)
教材・事業開発	教	ものづくりのプロに学ぼう	地域に住むものづくりのプロを本所に招聘し、その手法を学び、本所のプログラムとして活用していく。	未定	117,600
	ゆ	みそ汁プロジェクト	一杯の味噌汁の中身をみんなで考え、いっしょに味噌や味噌汁を作ることによって自然の恵みを体感したりすることで、仲間との絆を深める。	未定	69,400
	ゆ	親子天文ツアー	親子でぐんま天文台を訪れ天体観察をしたり、本所で野外炊事をしたりすることで、親子の絆を深める。	12月1~2日,平成25年1月26~27日	11,695
	ゆ	赤城自然エネルギーの家体験	環境に配慮した施設の運営を行うとともに、その設備を利用した環境教育プログラムを通して、来所者に環境保全への興味関心を育む。	未定	205,000
	教	森のようちえんプロジェクト	県内幼稚園から、日帰りで幼稚園生の受け入れをし、あかぎの森の中で様々な体験を経験する。	毎週月~金(休日のぞく)	321,600
	教	週末は森の学校へ行こう	地域の団体と連携し、あかぎの森に限定せず様々な場所で森の学校を開催して、自然に親しむ。	未定	30,000
	教	創作活動教材開発	利用者が意欲的に取り組めるような創作活動を開発する。	通年	300,000

	H24予算額	H23執行額
教育事業経費	3,414,300	3,426,274
委託事業経費	538,000	548,131
ゆめ基金事業経費	2,387,663	2,939,000
特殊事業経費	548,200	726,000

平成24年度 赤城青少年交流の家 組織図

